



JAPAN EAST REGION

ワイズメンズクラブ国際協会 東日本区
The International Association of Y's Men's Clubs



Change! 2022 ニュース

No. 5

Change! 2022 推進委員会 2019. 11. 15 発行

▼ 会員増強に思う

「ベツレヘムの星のように」

Change! 2022 推進委員
SNS 情報収集・パンフレット担当

榎本 博 (伊東)



皆さんはワイズメンズクラブが好きですか？ 自分は大好きです！ だって…楽しいじゃないですか！こんなに楽しく達成感を味わえるクラブは他に無いと思っています。国際協会としての目的やクラブとしての目的は、タテマエで良い

んじゃないかとも思っています。ただし、綱領とか目的を理解したうえでの話ですけど…。

皆さんが楽しいとか素晴らしいとか思わない様では、周りの人は振り向きもしませんし会員増強なんて有り得ません。どんなに事業や活動が外部から評価を得ていても、メンバーである皆さんが楽しんでやれていないとダメなんですよね…。

YMCA と協働するにしても、クラブで単独の事業をするにしても、相互の親睦があればこそスムーズに効率的に進行できるのだと思います。皆さんのクラブでは例会後や事業・活動のあとに懇親会など設けていますか？ 私の所属する伊東クラブは、隔月でクラブ公式の懇親会を例会後に、親睦委員会の段取りで実施しています。また事業の開催後にも反省会は開催します。こんな交流が会員同士や YMCA、地域社会との強い結びつきを生み、拡大する為の原動力になるのだと思います。

それにしても会員増強に関しては温度差が感じられますよね…。「会員増強は永遠のテーマ」と先輩達からよく聞いてきましたが痛感します。2017 年度に会員増強事業主任をさせて頂きましたが、あの時間いた「奉仕というのは出来る事を出来る時にする。

だから一人でも出来るんだよ！ 会員増強が全てではない！」の言葉にはカルチャーショックを受けました ^^； これも一つの考え方だと思います。

先日行われた「EMC アンケート」の設問 18 の「あなたはワイズが今のままでと将来どうなると思いますか？」では **67%**が「**衰退する**」と答えています。また設問 19「あなたはワイズの存続についてどう思いますか？」においては **82.9%**が「**残したい**」と答えました。近年の会員数の推移を見れば、近い将来、衰退どころか解散の声を多く聞くことになるでしょう。でも、アンケートに回答してくれた会員はワイズメンズクラブに何らかの思いを抱いている事で、残したいが **82.9%**あるわけです。〈4 ページに関連アンケート結果を掲載〉

温度差⇨考え方も地域差もありますが、このワイズメンズクラブという組織が何故 100 年近くも維持されて来たのか？ その事をもう一度考え、一人一人が会員増強の意識を持って頂きたく思います。自分はワイズメンズクラブが大好きです！ ベツレヘムの星のように輝かせたいと思っています。

◀ 榎本 博さんのプロフィール ▶

- 2005 年 3 月 14 日 伊東クラブ入会
- 2013 年 東日本区会員増強事業委員会 委員 (相磯優子 主任)
- 2015 年 第 40 代伊東クラブ会長
ブースター賞受賞
- 2016 年 東日本区会員増強事業委員会 委員
- 2017 年 東日本区会員増強事業主任
- 2018 年 東日本区会員増強事業委員会 委員
- 2019 年 change! 2022 推進委員会 委員
富士山部副会計

ワイズメンズクラブの一員として有意義な活動と交流をはかり、ワイズ 100 周年に向け微力ながらも会員増強に維持啓発に努めていきたいと思っています ^^/

▼ 新クラブを立ち上げて

▽ つるが飛び立つ日 ▽

横浜つるみワイズメンズクラブ会長

久保 勝昭

2018年9月19日、横浜生麦地域ケアプラザにおいて、湘南・沖縄部エクステンション委員会が主催するワイズメンズクラブの説明会に、6名（いずれも女性）の方が参加してくれました。皆さんは、私が実施している「うたごえ広場」を楽しみに来ている人たちでした。

この人達は「うたごえ」で単に歌うことだけではなく、終了後の清掃、茶わん洗い、椅子の整理、整頓等を進んでやる、いつもボランティア精神をもって活動してくれる方々でした。ケアプラザまつりでは毎年300食の焼きそばをつくり、その準備も前日から行い、当日も午前中には売り切ってしまうというハードな仕事もこなしてくれました。

この様な「つながり」が6年前からあった事もクラブ作りがスムーズにいった一端ではなかったかと思っています。また後から加入して頂いたお二人も、既にボランティアとして活動しているご姉妹でした。2018年3月17日の設立総会、2019年6月16日のチャーターナイト【写真＝認証状を受け取る久保会長】を経て「新クラブ・横浜つるみワイズメンズクラブ」が出来たのは、横浜YMCA、湘南・沖縄部エクステンション委員会、また、ワイズメンの多大な力によるものでした。本当に感謝、感謝でした。

私もワイズ歴は36年と長いのですが、新クラブという事で初めてチャーターバッジを頂きましたが、同時に会長に就くことになり、その責任の重さ、リーダーシップの難しさを感じている昨今です。

“良きつながりをもって”心一つに「無理のない奉仕活動」を主題としましたが、チャーターナイトの時、プログラムと一緒に袋に入れたミニバナーは手づくりで、100枚作ってくれました。大変な労力でした。そして最後に一緒に歌った「翼をください」でとりあえず「つばさ」は付きましたが、「大きく飛ぶ」その日がいつ来るか、日々、模索しておりますが、メンバーの「良き絆」「良き未来」「強い心」があれば“きっと”きっと大きく飛べることを確信しております。



▼ クラブ会員増強のヒント

Change! 2022 推進委員

藤井 寛敏（東京江東）

『私が2014年末に入会した時は会員17名のクラブでした。平均年齢は70歳以上、このままだと自然消滅を目の当たりに感じ、新メンバーを増やす方法を考え実行に移しました。最初に友人、仕事の付き合いなどから名前をピックアップし、イベント（バザー、チャリティーラン、ベビーカーコンサート、農作業、キャンプ活動など）に誘ってみました。ワイズメンズクラブに入会しないかと聞かれて入会する方はほとんどいませんが、「イベントをやるには人が足りない。たまには良いことをしないか。」と誘うと2人に1人は参加します。ここからが勝負！ワイズメンズへ入会とか、年会費は〇〇なんてことは最初に言わない。イベントに参加し、子供たち、お年寄りに寄り添ってみて、どう？と聞くと、「感動した」「教えられた」と答えが返ってきます。心を揺さぶられると、人は行動を起こしたくなるを感じました。甲府21クラブは会員数30名となり平均年齢も60歳前半まで若返りました。』

以上は東京西クラブの今年の1月号のブリテンに寄稿された直前あずさ部長の広瀬健さん（甲府21クラブ）【写真右】の文章の一部です。会員増強に対して大いなる示唆に富んでいると思います。



今般SNSによる新会員獲得の運動もスタートしたところではありますが、従来はある程度候補者を絞り、正面からクラブについての説明をし、例会に誘い、入会を勧める、というのが一般的でした。クラブを理解してもらうには活動に参加してもらう方が事業内容、クラブのメンバーを理解するのにも早くもあり、適しているかもしれません。ほとんどのクラブでは事業をやっているわけですからこの手は大いに利用できるかもしれません。今ある事業に磨きをかけてより意味のある魅力的なものにする（新しい人と共に）、あるいはそのような新しい事業を立ち上げることが望まれます。もちろん事業があってもなくても居場所を求めて会員になる方々にも積極的に門戸を開いていくことは当然なことだと思います。

今月号にあります東京ひがしクラブのお二人の会員の【入会まで】の例は、参加型からの新会員獲得の例になるのではないのでしょうか。

▼ クラブ・ブリテンより

お帰りなさい！ようこそ！！**東京ひがしワイズメンズクラブ**

7月入会した今井一夫さん（再入会）に続き、9月例会に於いて3名の入会式が行われました。今井さんに続いて再入会二人目の野澤さん（チャーターメンバー）は、実に16年振りに帰って来ました。そして、「下町子どもダイニング」へ毎月食材の支援をしていただいている（株）Sougoの北條裕子さん（取締役社長）と及川大樹さんは、楽しく活動している東京ひがしクラブに感銘して入会致しました。

飯田会長の目標とする、今期5名の会員増強まであと一人で目標達成です。



【写真左から、金丸閣東東部部長、新入会の北條さん、野澤さん、及川さん、そして飯田会長、元リーダーの須田副会長】

東京ひがしクラブ入会に際して

野澤 一弘

今巷では、人生100年時代「生きがいとして楽しみにしている事として」のテーマが取り上げられている。私は、その事に関し、東京ひがしクラブの原点である『地域に根ざしてYMCA活動にサポートをする』という主旨に、もう一度自分の身を預けようと思い立った。16年前に退会した時には、当時、マンネリ化した気持ちの整理がつかず、ワイズ活動から離れた。丁度その頃から、町会活動も副会長となり諸用事の負担が重くなり、一日おきに歩くという状態になり、中途半端で投げ出すという事が出来ず、抜け出す事を許されなくなった。

最初に取り上げたが、生きがいの数々あるテーマに、①旅行、レジャー ②子供、孫との交流 ③友人との交流 ④読書 ⑤映画鑑賞等色々あるが、これから③の友人との交流を大切にして頑張りますので、若輩者である私をよろしくお願い致します。

（以上、東京ひがしクラブ10月号ブリテンより）

入会まで

東京ひがしクラブ会長 飯田 歳樹

2018年4月、東京YMCA東陽町コミュニティーセンターのプログラムとして、東京ひがしクラブのサポートで「下町子どもダイニング」がスタートしました。印刷物をお願いしている賛助会員（法人会員）のメンバーである印刷会社に協力をお願いしたところ、同社が運営している農園から食材の一部の支援を申し出てくれました。それだけでなく同社の北條社長と社員の及川さんは毎回ダイニングに訪れ、配膳などのボランティアをしていただく中で、ひがしクラブのメンバーとの交流を深めていきました（ひがしクラブ得意の反省会を含めて）。そしてワイズへの入会を打診しましたところ2つ返事でOKをいただき、入会に至った次第です。ダイニングがスタートしてから一年半近く経っていました。

この子供ダイニングは月に1回、毎回お母さんと子供合わせ50~60人が参加（5時から7時で1時間は勉強やゲーム、1時間は食事。お母さんは300円、子供は無料）します。ひがしクラブのメンバーだけでなく、メンバーの元リーダー仲間数名も参加して10名近くのボランティアで運営しています。

-----▽-----
担当主事の沖利珂さんは「活動を始めてから共感頂いた多くの企業、団体、個人の方々との関係も広がり、ワイズとYMCAとの協働活動がもっともっと広がることを望んでおります。」とおっしゃっていました。（編集委員 藤井）

2019-2020年度 東日本区 Change! 2022

シンポジウムのご案内

日時：2020年2月1日（土）13：00～16：30

会場：東京YMCA社会体育・保育専門学校

（東京メトロ東西線 東陽町駅 5分）

主なプログラム：

●フェイスブック等SNSの活用実践

① 初歩メソッド ② SNS活用の入会例

●発題

① アクションプラン

② 「16名が36名へ、会員倍増の実践」

③ 新クラブ設立の動向

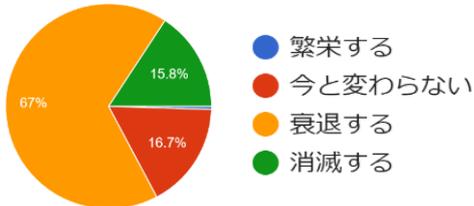
問合せ・申し込み：大川貴久（熱海）まで

qxq1dsmk3@aods.jp

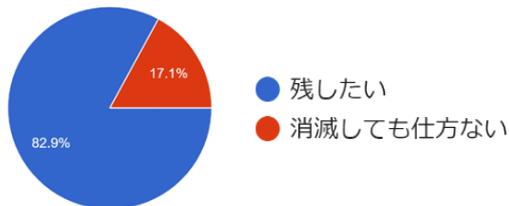
▼ 個人向けEMCアンケートから

個人向け EMC アンケートの結果は、東日本区ホームページの「Change! 2022」ページに掲載してあります。 <https://ys-east.jimdo.com/change-2022/> 今号ではくワイズの将来についての結果をご紹介します。

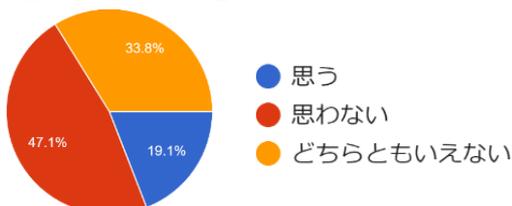
18. あなたはワイズが今のままだと将来どうなると思いますか？



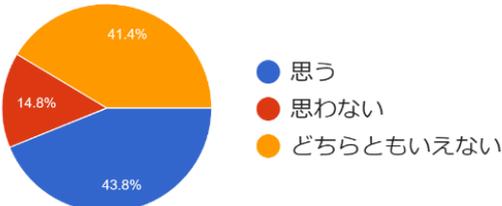
19. あなたはワイズの存続についてどう思いますか？



20. あなたは存続のためには、これから何も変えず、今の体制、組織、目的、政策、キリスト教的儀式などを維持していくべき（つまりワイズは変わるべきではない）と思いますか？



21. あなたは存続のためには既存のものに固執せず、大きな犠牲を払ってでも、大胆にこれまでとは異なるワイズに変身すべきと思いますか？



22. あなたは将来的にどのようなワイズメンズクラブを期待しますか？



▼ 「フェイスブック」ページが出来ました

会員増強事業主任 札埜 慶一（熱海）

トップページ写真には、地元を代表する風景、国際性を強調した国際大会スナップなどもあります。

▽ 茨城クラブのトップページ

<https://www.facebook.com/ibarakiclub/>



▽ 沖縄クラブのトップページ

<https://www.facebook.com/groups/101719716586837/>



▼ 新入会員をご紹介します

会員増強事業主任 札埜 慶一（熱海）

10月には、下記の方々が入会されました。（敬称略）

No.	入会者	(クラブ名)	紹介者
1.	米澤 さつき	(東京たんぼぼ)	越智 京子
2.	結城 眞代	(東京たんぼぼ)	越智 京子
3.	稲生 康	(沼津)	大村 貴之
4.	渥美 雄一郎	(熱海)	深澤 勇弘
5.	稲田 梨菜	(熱海)	田中 秀宝

▼ 東日本区 ニュース速報

▽ 台風15号・19号被災地支援募金のお願い

ゆうちょ銀行口座名:ワイズメンズクラブ国際協会東日本区
 ゆうちょ銀行から:口座記号番号 00110-0-362981
 他の金融機関から:019支店(当座)362981

▽ 新入会員に対する東日本区大会登録費補助

クラブ入会1年以内の会員に対して、区大会登録費を全額補助します。対象期間は Change! 2022 運動と連動して、向こう3年間とします。